

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	ビジョン	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
			【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究(特別活動)を充実させ、授業力の向上を図る。	主体的な授業改善を図るために、学期ごとに行う授業観察で1回以上特別活動を実施し、お互いに観察し合う。	4 90%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上	4	授業づくりに対する教員の意識の深化が見られる。その成果は児童アンケートにも表れている。授業内容についての肯定的評価は98%に達し、日常の授業改善が児童の学びの満足につながっていることが分かる。	「分かった」「できた」と実感できる児童が増えるよう、取り残される児童が減るような指導を望む。	4	今後児童が「分かった」「できた」と実感できる授業を積極的に実施できるよう、校内研究を軸とした計画的な授業改善を進めたい。教科等の授業においても日常的な相互観察やICTを位置付け、教員一人一人の実践を学校全体の学びへとつなげていく。
				3 85%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。		3 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上					
				2 80%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。		2 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上					
				1 80%未満の教員が授業と公開に取り組んだ。		1 児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%未満					
豊かな心	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的、対話的で深い学びによる学力向上を推進する。	GIGA端末やICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識をもたせられる授業を進める。個別最適な学習を展開していく。	4 90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が90%以上	4	児童の学習状況や実態を踏まえた授業改善の学習計画に進めることができた。こうした取組が、授業内容の理解や学びの定着につながっており、学校全体の授業改善の質をさらに高めていく必要がある。	低学年のうちから家庭学習が身につくよう指導していくことを望む。	4	授業改善推進プランを活用しながら、児童の学習状況や実態に合わせた授業改善を計画・実施する。各学年力調達の結果分析より、課題を明確にし、改善のポイントを共有するとともに、授業改善推進プランを反映させる。
				3 85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		3 児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が80%以上					
				2 80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		2 児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%以上					
				1 70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		1 児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%未満					
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	年度内の学校生活目標に3度ほど挨拶を取り上げたり、児童会を中心とした挨拶運動に取り組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4 全教職員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか。」が90%以上	4	教職員も日常的に挨拶についての指導を実施し、児童会でも挨拶運動や挨拶スタンプなど、児童主体の活動ができた。その結果、「自分や友達を大切にしている」の項目で96.5%の児童が肯定的な評価につながったと考えられる。	見守り活動の地域の方々に対しての挨拶がよくできている。	4	「自分や友達を大切にしていますか。」の項目のうち、3.5%の児童は否定的な評価をしており、引き続き、挨拶の交流や指導等を通して自分や相手を大切にできるようにしていきたい。
				3 90%以上の教員が日常的に指導した。		3 児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか。」が85%以上					
				2 80%以上の教員が日常的に指導した。		2 児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか。」が80%以上					
				1 80%未満の教員が日常的に指導した。		1 児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか。」が80%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを振り返ることで、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が95%以上	4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います。これは、教員の道徳教育の推進と児童一人ひとりが自分事としてとらえた判断力、心情を育み実践してきたことが結果につながったと考えられる。	「人と仲良くすることが大切だ」ということを伝えてほしい。	4	3.5%の児童は否定的な評価をしているので、道徳推進教師を中心にさらにも道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。
				3 85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		3 児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が90%以上					
				2 80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		2 児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が85%以上					
				1 80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		1 児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」が85%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	心身の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	4 90%以上の教員が3回以上「いじめに関する授業を行った。」	4	4 児童アンケート「学校で落ちこみで安心して生活できていますか。」が90%以上	4	「学校で落ちこみで安心して生活できていますか。」の項目において、90%の児童が肯定的な評価をしている。この結果からも9割の児童が安心して学校生活を過ごすことができていることが分かる。	保健室等、教室以外でも学校内において安心して過ごせる場所があることにはよき意味がある。	4	90%の児童が肯定的な評価をしていますが、10%の児童が否定的な評価をしていることから、職員交流会やPTAにおいて、人権教育プログラムを活用しながらさらなる人権教育の充実を図り、児童が安全安心に学校生活が過ごせるようにしていく。
				3 90%以上の教員が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		3 児童アンケート「学校で落ちこみで安心して生活できていますか。」が85%以上					
				2 80%以上の教員が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		2 児童アンケート「学校で落ちこみで安心して生活できていますか。」が80%以上					
				1 80%未満の教員が3回以上「いじめに関する授業を行った。」		1 児童アンケート「学校で落ちこみで安心して生活できていますか。」が80%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。	4 90%以上の教員が記録と振り返りを行った。	4	4 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が95%以上	3	生活リズムカードを年に3回実施し、児童と保護者が生活の振り返りを行う機会をつくった。実施するだけでなく終わってしまうことが多く、改善についても考えること、規則正しい生活を継続するよう伝えていくことが課題である。	学校として生活リズムを整えるよう働きかけはできていると思う。	4	生活リズムカードを実施するだけでなく、定期的な振り返りや運動会などで各学年でもできるようにする。規則正しい生活リズムを継続することができるように、定期的に声をかける。
				3 80%以上の教員が記録と振り返りを行った。		3 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が85%以上					
				2 80%以上の教員が記録と振り返りを行った。		2 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が85%未満					
				1 70%以上の教員が記録と振り返りを行った。		1 児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が85%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常的に行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4 全教職員が日常的に指導を行った。	4	4 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が90%以上	3	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。避難の仕方は身に付いているものの、慣れからくる危機意識の低下も見られる。	毎月避難訓練がしっかりと実施されており、十分評価できる。	4	様々な状況想定した避難訓練を行い、緊急性を促して取り組むようにする。また、安全指導を充実させ、危険を知り、自分自身を守る力を身に付けることができるようにする。
				3 90%以上の教員が日常的に指導した。		3 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が85%以上					
				2 80%以上の教員が日常的に指導した。		2 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が80%以上					
				1 80%未満の教員が日常的に指導した。		1 児童アンケート「安全や健康についての知識を生活の中で生かしている」が80%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮し、心身の自己実現を図り、よりよい人間関係を形成したりできるようにする。	4 全教職員が話し合い活動を充実させた。	4	4 児童アンケート「話し合う時間」が95%以上	3	各学年で、学級会に取り組み、学年やブロックの教員間で授業参観している。参観し合うことで、学級会が抱えている個々の課題を改善する取組を行った。	学級会の積み重ねにより自分の意見をもてる、伝えられる児童が増えた。	4	学級会の経験を積み重ねている児童が、学年進行と共に、委員会やクラブ活動などにより主体的に活躍することができているため、継続して取り組んでいく。
				3 90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		3 児童アンケート「話し合う時間」が90%以上					
				2 80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		2 児童アンケート「話し合う時間」が80%以上					
				1 70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		1 児童アンケート「話し合う時間」が80%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組むスポーツ及びバーチャルスタジアムの計画を立て、実施する。	4 90%以上の児童が楽しく参加した。	3	4 児童アンケート「行事の満足度」が90%以上	4	たてわり班活動について教員間で話し合い、各学期のあてを立てて、遊びの感想を伝え合ったりしてきたことで、異学年での交流機会が増え、互いに認め合える関係性が築けている。	6年生が主体となり、たてわり活動がうまくいっている。	4	今年度途中から取り入れた、たてわり班による話し合い活動などの取組を今年度で実施し、よりよい関係を児童間で築けるようにしていく。
				3 80%以上の児童が楽しく参加した。		3 児童アンケート「行事の満足度」が80%以上					
				2 70%以上の児童が楽しく参加した。		2 児童アンケート「行事の満足度」が70%以上					
				1 60%以上の児童が楽しく参加した。		1 児童アンケート「行事の満足度」が60%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	グスタティチャーや出前授業等、人と関わる体験的活動を計画的に実施する。また、コミュニティスクールの特長を生かし、地域の学習材を各学年で活用する。	4 全学年が体験的活動を実施した。	3	4 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が98%以上	4	前年度に作成した地域活用人材をもとに、単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施している。	出前授業を通して、様々な職業や活動に興味をもたせている。	4	今年度の情報を来年度に引継ぎ、継続して地域学校協働本部や外部との連携を高めていくようにしていきたい。
				3 5つの学年が体験的活動を実施した。		3 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が95%以上					
				2 4つの学年が体験的活動を実施した。		2 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%以上					
				1 3つの学年が体験的活動を実施した。		1 児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%未満					